

来週の市場とレート予想

上田八木短資株式会社

	5/16 (月)	5/17 (火)	5/18 (水)	5/19 (木)	5/20 (金)
無担保O/N	△0.086% ~ 0.000%				
銀行券	+ 1,900	ト ン	ト ン	△ 1,000	△ 1,000
財政他	△ 17,800	+ 2,000	+ 1,000	△ 25,000	△ 19,000
資金需給	不 15,900	余 2,000	余 1,000	不 26,000	不 20,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 国債発行(2年、30年) 国債償還(2年)			国債発行(5年)	国庫短期証券発行・償還(1Y)
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,800 CP等買入 △ 1,200				
オペスタート	共通担保(全店) + 2,800 ETF買入 + 300	短国買入 + 30,000 国債買入 + 8,500			
(日本)	企業物価指数(4月) 中古車販売台数(4月) 業態別の日銀当座預金残高(4月)	閣議 マネタリーサーベイ(3月)	GDP(1-3月期速報) マンション発売(4月)	機械受注(3月) 対外対内証券売買(前週分)	G7財務相・中央銀行 総裁会議(仙台) 閣議 百貨店売上高(4月) 鉄鋼生産(4月) コンビニエンスストア売上高(4月)
(海外)	米 NAHB住宅市場指数(5月) 米 NY連銀製造業 景況指数(5月) 米 対米証券投資統計(3月)	米 住宅着工・建設許可件数(4月) 米 CPI(4月) 米 鉱工業生産(4月)	米 FOMC議事録(4月26、27両日分) 欧 ユーロ圏CPI(4月)	米 新規失業保険申請件数(14日終了週) 米 景気先行指標総合指数(4月) 米 NY連銀総裁、講演 欧 ECB議事要旨	米 中古住宅販売件数(4月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.07 ~ 0.000
SPOT 2M	△0.07 ~ 0.001
SPOT 3M	△0.07 ~ 0.001
SPOT 6M	△0.07 ~ 0.001

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初281兆円台からスタートし、11日には国債買入オペ等を要因に283兆円台まで増加した。その後、財政等要因を受け13日には278兆8,600億円まで減少した。無担保コールON物は週初△0.08～△0.06%で取引されていたが、10日以降積み期が進むにつれて調達需要が強まり、積最終日となる週末13日は△0.06～△0.03%のレンジで出合いが見られた。無担保コールON物金利加重平均は9日から12日まで△0.068～△0.063%のレンジで推移し、13日には0.055%となった。ターム物は1W～1M物△0.06～△0.05%の出合い。12日に内閣府より公表された4月の景気ウォッチャー調査では現状判断DIが43.5と、2014年11月につけた41.5以来17か月ぶりの低水準に留まった。日経平均株価は米国株高や円安基調などを材料に12日まで4日連続で続伸したものの、13日には週末の手仕舞い売りの動きが見られ、234.13円安の16,412.21円で終えた。来週以降の材料として、国内は1-3月期GDP速報(18日)、海外はFOMC議事録(18日)等が挙げられる。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	0.000 ~ 0.005
TDB 3M	△0.300 ~ △0.200
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行額は約3,700億円で、期落ち額約5,000億円(金融機関・ABCP除く)を下回った。a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.0010%割れで推移した。現先レートの中心は、△0.100%～0.000%程度で推移した。来週の期落ち額は3,000億円程度となっている。

<TDB>

10、12日に国庫短期証券3M第605、607回債の入札が行われたが、最高落札レートはそれぞれ△0.2197%、△0.2204%(前回604回債△0.2284%)、平均落札レートは△0.2375%、△0.2313%(同△0.2473%)と前回604回債からほぼ横ばいの水準であった。セカンダリーは3Mで△0.278%近辺の地合いとなっている。6M、1Yは目立った出合は見られなかった。来週18日に1Y、19日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

足許GCは、9日受渡しで△0.08～△0.09%近辺で出合い、連休明けまで同水準で推移した。12日受渡し以降はTDB・JGBの発行が続いたこともありレートは上昇、16日受渡しでは△0.05%近辺の出合いも多く見られた。週末には短国買入が前回から1兆円増額の3兆円、輪番オペが8,500億円オファーされ、△0.07～△0.08%程度までレートが低下し越週した。SCは10年338回債が△0.20～△0.30%近辺、340回債が△0.15～△0.30%近辺で推移した。2年363回債、5年125・126・127回債、10年330・331・336・338・339・340・341回債、20年153・154・155・156回債、30年48・49・50回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。